富嶽百景

153

契沖ヵ富士百首も實に此し寄顕れ
東海の不二の高きを無條雲に於ても見え能
今新に百嶽を図するは前北齋翁之此也
獨立して高峰此嶺平出つ筆乃畫も又獨立
志事も名高き事一千五百丈り愚なれ
画帖諸図に可臨藏を思ふ者も亦多ふ堂
十五形の杜観る亦なりされど不二も十名も秘哉物
に載せり先生屢名を改むる事々なり寒十余に
老後数にきし乃図る遠いふ也此岳を畫ける
年々近き田子乃浦に見る事三保が峰より

富嶽百景

成鄰堂

7547 .H8 8
6891

空に隈なき月雪なるあしたの志ら天風情
篠やかなる景色を愛て富士見原に杖をひき汲坂に
駕をとゞめ梯の絵より加ゝる景を望ミ稲葉式戦犯
み高根を仰ぎ蓬莱嶽なりと称し大洋白雲谷に
埋る筆端險阻にして飛ぶに似たり真景を写され
ゑがきし翁の精神此巻に止り弾山志きれ山
きもりと升き画本の筆頭を突兀と生ぜし事
阿闍梨百首に劣らぬものや

天保甲午孟春

柳亭種彦識

華斎書之

孝霊五年
不二峯出現

役優婆塞
富嶽草創

快晴の不二

辷り

不二の山明キ

宝永山出現

梅林

霧中の不二

山中の不二

柳塘の不二

袖ヶ浦

七夕の不二

江仙
吉寅

山亦山

尾州
不二見原

吉
彫

大森

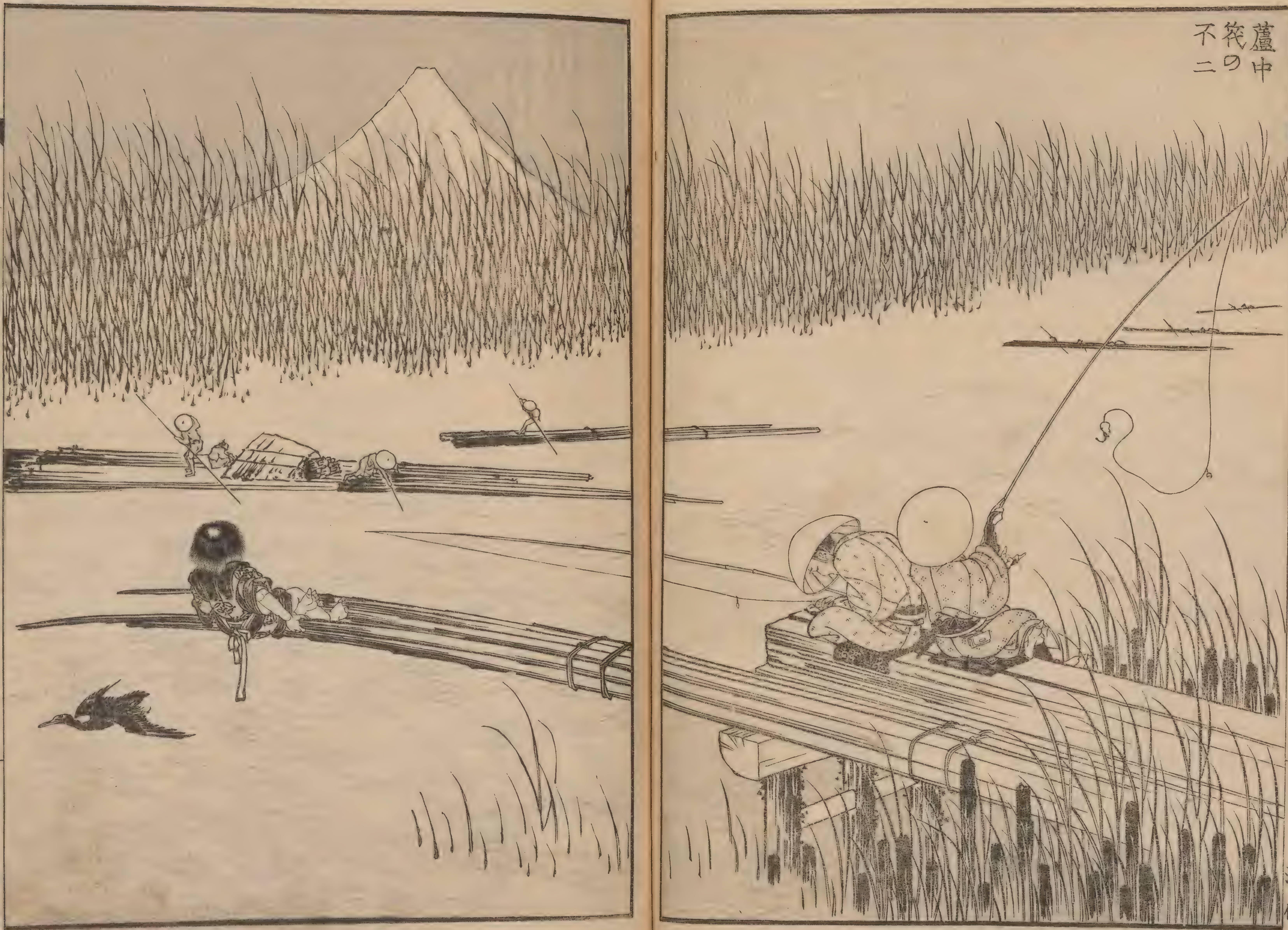
洞中の不二

松山の不二

青面金剛

畑中乃不二

田面の不二



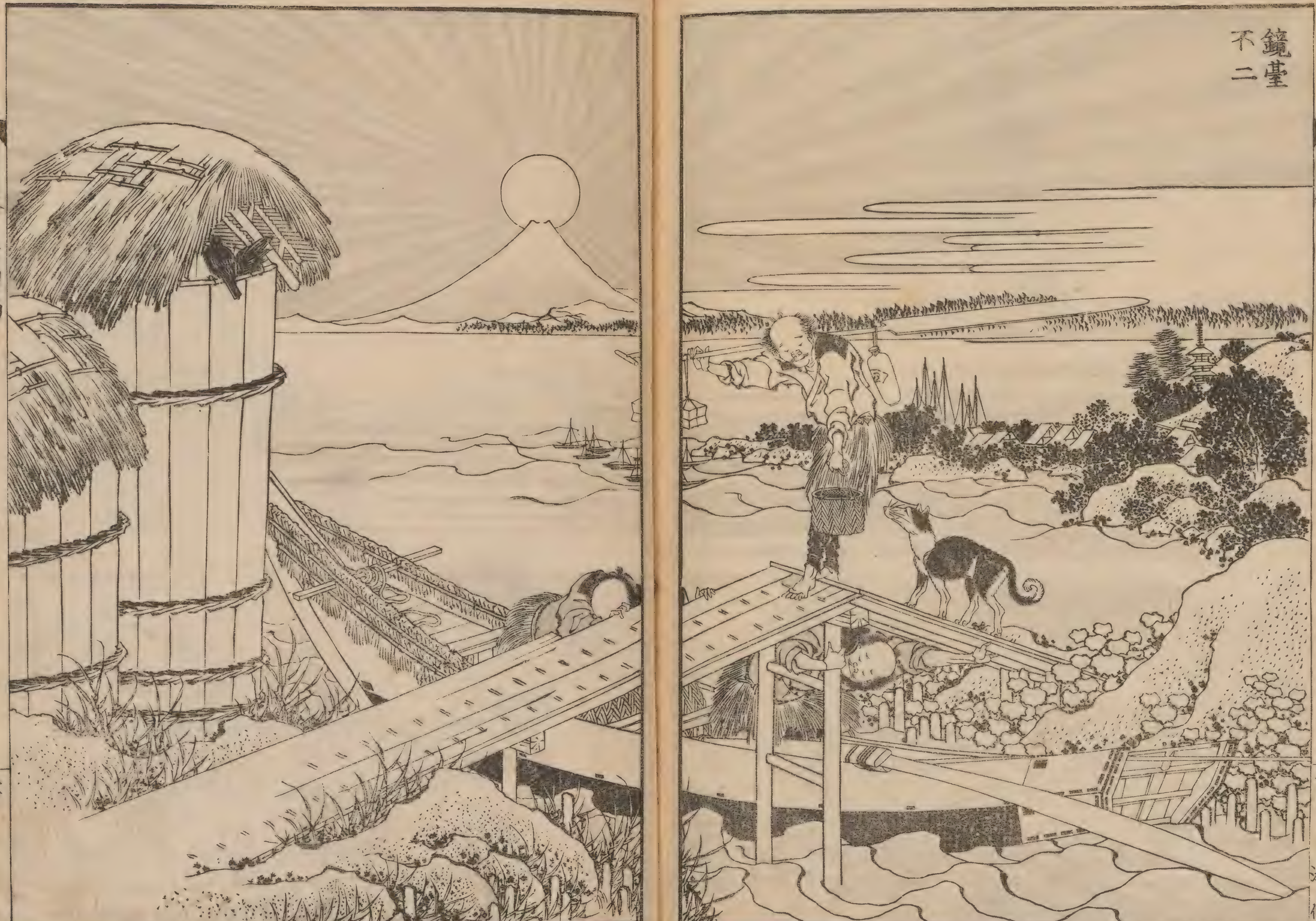
江仙

米吉

木枯の不二

元旦の不二

江戸の不二



鏡臺不二

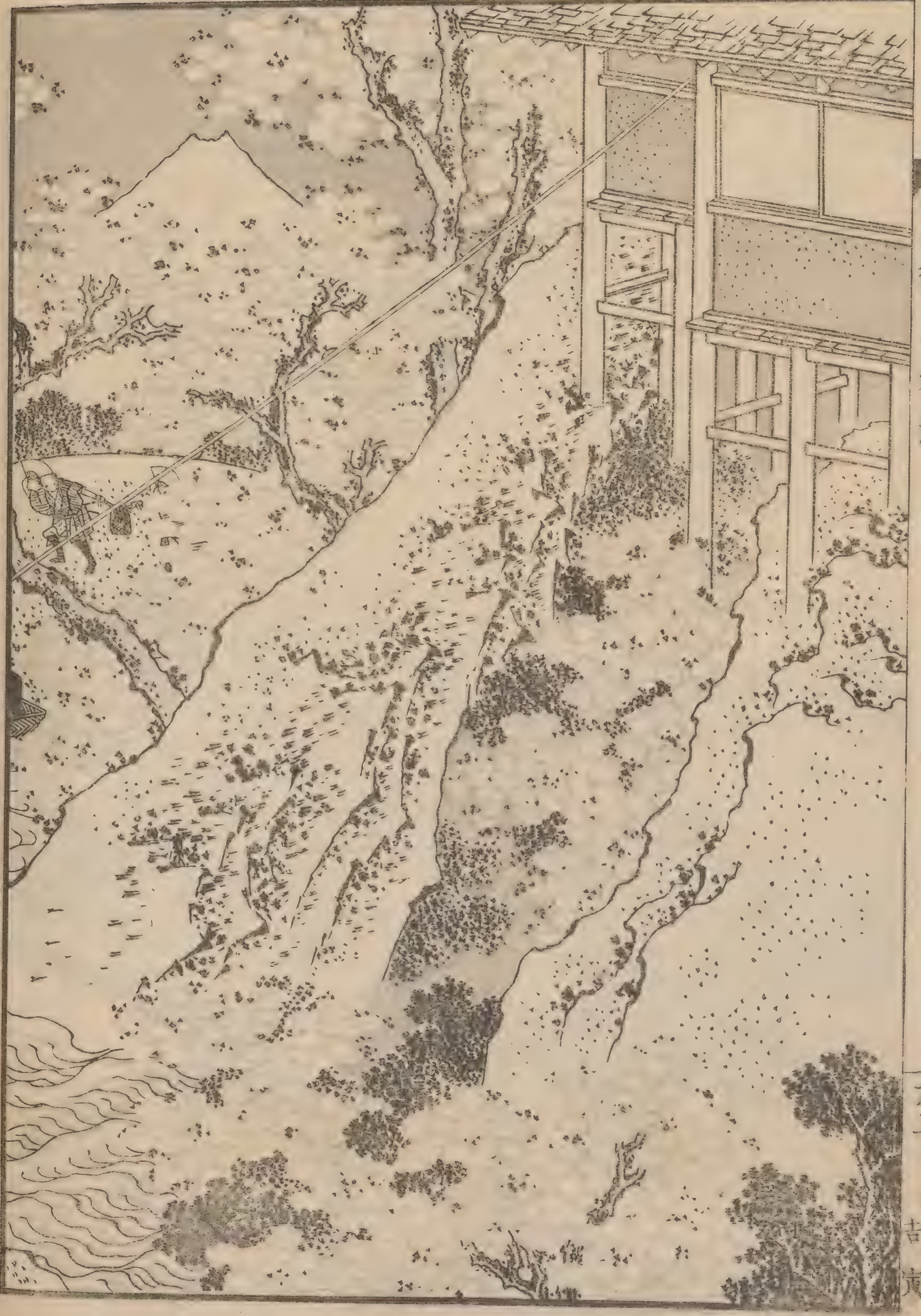
米吉

笠不二

古雪

一六二

花間の
不二



吉寅

七十五齢 前北齋為一改

画狂老人卍筆

己六才より物の形状を写の癖ありて半百の比より数々画図を顕すといへども七十年前画く所は実に取るに足ものなし七十三才にして稍禽獣虫魚の骨格草木の出生を悟し得たり故に八十才にしては益々進み九十才にして猶其奥意を極め一百歳にして正に神妙ならん歟百有十歳にしては一点一格にして生るがごとくならん願くは長寿の君子予が言の妄ならざるを見たまふべし

画狂老人卍述

剞劂 江川留吉 （五常亭）

冨嶽百景 初編 二編 三編 既行 近刻 全
名橋百景 近刻
異草百花撰 近刻
百家奇術 同
狂画草筆百眼 同
百壽百福 同

漁家百景　近刻

月下百景　同

農家百景　同

圓方長短一百自在圖會　近刻

百馬百牛　同

百禽百獸　同

天保五甲午年春三月發行

書林

尾州名古屋　永樂屋東四郎

江戸麹町四丁目　角丸屋甚助

仝馬喰町二丁目　西村與八

仝　西村祐藏